

全校生の皆さん、おはようございます。

今、私たちは「求めなさい。そうすれば与えられる」という聖書の言葉を聴きました。

これは、神さまは、私たちが願い求めることに真剣に応えてくださるという約束の言葉です。

そのことを思いながら、今日は、先週天国に召されたフランシスコ教皇が残したメッセージに、少し心を向けてみたいと思います。

まず、改めてお伝えします。先週の月曜日、4月21日、第266代ローマ教皇フランシスコが88歳で帰天されました。教皇とは、世界中のカトリック教会のリーダーであり、「地上の教会の父」と呼ばれる存在です。その使命は、世界中の人々に愛と平和、そしていのちの尊さを伝えることに生涯をささげることです。

私たちは、先週の朝礼で、教皇フランシスコのために心を込めて祈りました。私たちの祈りは小さなものかもしれませんが、世界中の人々の祈りの輪と一つになり、きっと天に届いたことでしょう。

さて、教皇フランシスコは2019年11月、日本を訪問されました。コロナが始まる少し前のことです。その時のテーマは「すべてのいのちを守るため」でした。

長崎と広島では、核兵器の恐ろしさ、戦争の非人道性について世界に向かって強く訴えられました。特に、核兵器についてはこう語られました。

「核兵器の使用はもちろん、その保有自体も倫理に反します。」

この言葉は、多くの人々、特に核保有国のリーダーたちに大きな衝撃を与えました。

核兵器を「平和のための抑止力」とする考え方を明確に否定し、いのちを脅かすものに対して「ノー」と言い続けなければならないと、教皇様は力強く語られました。

ここで私は、皆さんに問いかけます。

「あなたは、いのちを傷つけるものに対して、ノーと言う勇気を持っていますか？」

世界の現実は厳しいものです。でも、どんなに小さな存在であっても、「いのちを守る側に立つ」と決意することが、未来を変える力になります。

また、教皇様は東京で、全国から集まったカトリック高校の生徒たちにこう語られました。

「日本の若者たちよ、自分自身を過小評価しないでください。あなたたち一人ひとは、たとえ小さな火であっても、世界を明るく照らす光となることができます。」

ここでも、皆さんに、問いかけてみます。自分の心の中の声に耳を傾けてみてください。

「今、あなたの中で灯っている小さな火は、どんな火ですか？」

努力する火、誰かを思う優しさの火、真実を求める火……。その小さな火を大切に育てることが、未来を照らす光になります。

さらに、上智大学では、大学生にこんなメッセージを残しました。

「知識や情報を詰め込むだけでなく、それをもとに、知恵と分別を持って行動してください。」

「開かれた心で、他者の痛みに共感できる人になってください。」
「皆さんが身につける知識は、自分のためだけでなく、世界をよりよくするために用いられるべきです。」

ここでも、皆さんに問いかけます。

「あなたの学びは、誰のために生かされるのでしょうか？」

今、皆さんが学んでいることは、きっと未来に誰かを支え、いのちを守る力になります。

「光の子」として、知恵と愛をもって生きる人へと成長していきましょう。小さな一歩、小さな優しさ、小さな祈りでもかまいません。

今日、皆さんが灯す光は、確かに誰かの希望となり、世界を変える力になります。

最後に、教皇様が日本に残してくださった次の言葉を、皆さんに贈ります。

「日本の皆さん、どうか、いのちを守り、平和をつくる人になってください。」

これが、教皇様から私たちに託されたバトンです。

「求めなさい。そうすれば与えられる。」

皆さんが心の奥で願う小さな火を信じて、日々の学びと行動を積み重ねていきましょう。